

北海道師範塾 塾頭通信

「教師の道」

第722号 平成26年4月17日

不登校児のための中学校

札幌市内に、ユニークな学校がオープンしました。この学校は、「私立星槎もみじ中学校」といい、去る4月12日に入学式が行われ、私もお案内をいただきましたので出席して参りました。

不登校児を専門的に受け入れる中学校は道内では初めてとなります。本校の定員は1学年90人となっており、また、入学試験は毎月行い、随時編入が可能との事です。

入学式当日には8名の生徒が出席しましたが、生徒の数が少ないという以外は、普通の中学校と何も変わりません。子ども達にとっては、まさに本校が母校になるのだなと感じられました。子ども達の様子を見てみると、ここに至るまでに様々な重荷を背負って来たに違いありませんが、彼等には「星槎もみじ中学校」での活動を通して、学校で学ぶ事の楽しさや喜びを知って欲しいと願っています。

さて、道内の不登校児童生徒は、平成24年度で

- ・小学生は667人（前年度747人）
- ・中学生は3073人（前年度3254人）

となっています。前年度よりも数は減っているとはいえ、学校に通えない子ども達が小中合わせて約3700人もいる事は、深刻に受け止めなければなりません。

また、不登校の原因に「いじめ」があるのではないかと一般的に考えられますが、

不登校になったきっかけ

1	本人に係る状況	不安など情緒的混乱	38.4%
2	本人に係る状況	無気力	28.0%
3	家庭に係る状況	親子関係をめぐる問題	21.4%
4	家庭に係る状況	家庭の生活環境の急激な変化	13.6%
5	学校に係る状況	いじめを除く友人関係をめぐる問題	13.2%
6	本人に係る状況	病気による欠席	11.4%
7	学校に係る状況	学業の不信	10.0%

【平成24年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査から】

社会的な要因と様々です。この事からも、不登校は決して特定の子に起こる特異な問題としてではなく、どの子にも起こり得る問題だと認識して置く必要があります。

子ども達が一旦不登校になってしまうと、元に復帰する事は簡単ではありません。従って、各学校では保護者とも連携しながら、不登校の予兆を出来るだけ早期に発見し対応する等、不登校の未然防止に取り組むことが重要です。また、不登校となってしまった子どもに対し

ては、一日も早く学校への復帰が可能となる様、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携しながら、適応指導教室を有効に活用する等してきめ細かく支援して行かなければなりません。

「子どもが学校に行きたくないというなら、無理に学校には行かせる必要はない」という話しを耳にする事があります。確かに、無理やり子どもを学校に引っ張って行っても、それで子どもが学校に復帰出来る様になるとは思えませんし、むしろ、事態はもっと悪い方向に向きかねません。その意味では、決して無理をしてはいけません。同時に、学校も保護者も、基本的には学校に復帰出来る様に努力すべきであり、その日は必ず来るという思いを捨ててはならないと思っています。

不登校の子ども達の中には、フリースクールで相談や指導を受けている子どもも少なくありません。

ただ、フリースクールは公的な学校と認められていません。このため、フリースクールに通っても卒業資格は得られませんので、最終的には、在籍する小・中学校を卒業する事になります。

この様にフリースクールは、不登校の子ども達にとっては救いの場であり、居場所となっている事は事実だと思いますが、不登校の子ども達に対してしっかりとした教育的支援を行うという点では、機能的に限界があるといわざるを得ません。

また、不登校の子ども達の中には、元の学校には戻れない、戻りたくないという子どもいると思いますので、そういう意味でも、今回新たにスタートした「星槎もみじ中学校」の様に、不登校の子ども達を受け入れ、しかも、しっかりとした教育を行う事が出来る学校の誕生は、非常に意義があると思います。

「星槎もみじ中学校」では、円滑な人間関係を作り出す訓練である「ソーシャル・スキル・トレーニング（SST）」と学び直しを目的とする「ベーシック（小学校3年から6年レベル）授業」を展開するとしています。

不登校は、将来の引きこもりやニートに繋がりがねませんので、「星槎もみじ中学校」が先駆的モデルとして、是非、不登校からの脱出という点で成果を上げられる様、大いに期待しています。（塾頭：吉田 洋一）